



本資料は、米国アッヴィ社が2021年4月30日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2021年5月10日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

## PRESS RELEASE

2021年5月10日

### アッヴィ、2021年第1四半期の業績を発表

- 第1四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、1.99ドルでした。調整後希薄化後EPSは、2.95ドルでした。
- 第1四半期の売上高は、報告ベースで51.0%増のGAAPベースで130億1,000万ドルでした。調整後の売上高は、129億3,500万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで12.9%増、営業ベースで11.8%増の57億4,400万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、6.9%増の39億700万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで8.3%減、営業ベースで12.6%減の9億6,000万ドルでした。スキリージ®の売上高は、5億7,400万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、3億300万ドルでした。
- 第1四半期の血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで8.0%増、営業ベースで7.3%増の16億7,300万ドルでした。イムブルピカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社が承認、発売)の売上高は2.9%増の12億6,800万ドルで、その内訳は、米国内が9億9,900万ドル、米国外が2億6,900万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、4億500万ドルでした。
- 第1四半期のエステティクス領域の売上高は、11億4,100万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、4億7,700万ドルでした。
- 第1四半期の神経疾患領域の売上高は、12億4,800万ドルでした。ボトックス・セラピューティックの売上高は、5億3,200万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、3億4,600万ドルでした。
- 2021年におけるGAAPベースの希薄化後EPSの見通しは、6.69ドル~6.89ドルから7.27ドル~7.47ドルへ引き上げます。2021年における調整後希薄化後EPSの見通しは、12.32ドル~12.52ドルから12.37ドル~12.57ドルへ引き上げます。



米国イリノイ州ノースシカゴ、2021年4月30日—アッヴィ(NYSE: ABBV)は、2021年第1四半期(2021年3月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「2021年、私たちは、中核となる疾患領域が好調となり、売上高や利益が予想を上回る、幸先の良いスタートを切りました。新製品が業績を大きく伸ばし、2021年に5つの承認を控えているなど、今後2年にわたり、多数の新製品や適応拡大が予定されています」

### 第1四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで51.0%増の130億1,000万ドルで、調整後の売上高は比較可能な営業ベースで、5.2%増の129億3,500万ドルでした。
- イムノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで12.9%増、営業ベースで11.8%増の57億4,400万ドルでした。
  - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで3.5%増、営業ベースで2.6%増の48億6,700万ドルでした。米国での売上高は、6.9%増の39億700万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで8.3%減、営業ベースで12.6%減の9億6,000万ドルでした。
  - スキリージ®の売上高は、5億7,400万ドルでした。
  - リンヴォック®の売上高は、3億300万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで8.0%増、営業ベースで7.3%増の16億7,300万ドルでした。
  - イムブルピカ®の売上高は2.9%増の12億6,800万ドルで、その内訳は、米国内が9億9,900万ドル、米国外が2億6,900万ドルでした。
  - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで27.9%増、営業ベースで24.5%増の4億500万ドルでした。
- エステティクス領域の売上高は、比較可能な営業ベースで34.9%増の11億4,100万ドルでした。
  - ボトックス・コスメティックの売上高は、比較可能な営業ベースで44.7%増の、4億7,700万ドルでした。
- 神経疾患領域の売上高は、報告ベースで100.0%以上増加し、比較可能な営業ベースでは10.9%増の12億4,800万ドルでした。
  - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社が販売)の売上高は、比較可能な営業ベースで7.0%増の5億3,200万ドルでした。
  - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、比較可能な営業ベースで21.2%増の3億4,600万ドルでした。
  - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、8,100万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は67.6%でした。調整後売上総利益率は83.9%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、21.8%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は21.2%でした。



- GAAP ベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、13.7%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、11.6%でした。
- GAAP ベースで、営業利益率は31.5%でした。調整後営業利益率は51.0%でした。
- GAAP ベースで、純支払利息は6億2,200万ドルでした。
- GAAP ベースで、税率は、8.1%でした。調整後の税率は、12.3%でした。
- 希薄化後 EPS は、GAAP ベースで 1.99ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.95ドルでした。

注意：「比較可能な営業ベース(Operational)」の対比は、アラガンの当四半期と前年同期の比較が含まれます。アラガンの統合手続きの完了は2020年5月8日ですが、2019年1月1日に統合したものと、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。詳細については、主要製品売上高の表をご参照ください。「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

[https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-first-quarter-2021-financial-results.htm?\\_ga=2.93702235.738660783.1619783303-1741081124.1613441115](https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-first-quarter-2021-financial-results.htm?_ga=2.93702235.738660783.1619783303-1741081124.1613441115)

## アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com) をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

## Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, the failure to realize the expected benefits of AbbVie's acquisition of Allergan or to promptly and effectively integrate Allergan's business, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and



regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2020 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.